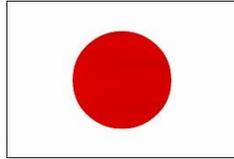




ナミビア通信

～のんびり(Nombili)～



青年海外協力隊
岩塚善哉
Sep. 2019 No.12

夏休みはいかがでしたか。まだ残暑が厳しいとは思いますが、気持ちを切り替えて学校生活に取り組んでください。ナミビアは冬の終わりが見え、少しずつ温かくなりましたが、まだ朝晩は寒く、私は風邪を引いてしまい、病院で薬をもらいました。皆さんも熱中症など体調には十分気をつけてください。

水の大切さについて(Importance of Water)

私の住むオカハオを含む地域全体で、断水が1週間続きました。私の住む地域の用水路の一部が決壊してしまい水が出ませんでした。これまでも断水はありましたが、長引くことはありませんでした。皿洗い、洗濯、入浴もできません。冬とはいえ、日中は30度近くまで上がる日もあり、いつになったら水が出るのだろうという不安がありました。初めは、溜め置きをしている水を使っていましたが、ナミビアの先生たちと3人で住んでいることもあり、溜めていた水もあつという間になりました。雨水を溜めている場所があると聞き、大きなバケツを持っていきましたが、水を入れるととても重く運ぶのにも一苦労でした。少ししかない水をできるだけ使わないように過ごした1週間でしたが、水の大切さについて考えさせられました。



雨水を汲む様子

「様々な職種のボランティアが活動しています」～協力隊員に聞きました～

鈴木あゆみさん 愛知県岩倉市出身

・職種(活動内容):「服飾」隊員

ナミビア西部のスワコップムンドという町に住んでいます。NGOのコステファート&クラフトセンターという専門学校に所属し、地方開発プロジェクトに参加しています。地方に村が多くありますが、そこにはファッションを勉強する学校がありません。そこで私はミシンや裁縫セットを運び、村の女性(20~40歳)に縫製やデザインを教えています。いずれは彼女たちが独立して仕事ができることが活動の目標です。

・なぜ青年海外協力隊に応募したのですか。

子どもの頃から「海外で暮らしてみたい」「ファッションのスキルをいかしたい」「人の役に立ちたい」と3つの夢があり、青年海外協力隊を知ったときに「これだ!!」と思いました。

・青年海外協力隊に入る前は何をしていましたか。

ファッションの専門学校を卒業した後、自分でデザインした洋服を販売していました。時にはお客様の希望に合わせてウエディングドレスを作ることもありました。一般企業で会社員として働いていたこともあります。

・ナミビアの印象について教えてください。

広いです!!高いビルがないので、水平線上に太陽が沈むのが見えます。日本のように高速道路や新幹線はないので、どこに行くにも時間がかかりますが、移動中に野生動物や広大な景色が楽しめます。

・活動で大変だったことを教えてください。

文房具や裁縫セットを配付しても無くしたり、壊したりしてしまう学生が多いことです。皆さんも自分の持ち物には名前を書き、最後まで大切に使って欲しいです。

・中学生へのメッセージをお願いします。

中学時代の家庭科の授業で初めて洋服を作った時に興味を持ち、ファッションの勉強を始めました。初めは絵も縫製も上手ではありませんでしたが、何度も練習してだんだん上手になりました。ナミビアの学生にもあきらめずに何度も挑戦することを伝えたいと思っています。お互い一步一步、歩いていきましょう。



鈴木あゆみさん(右)

デザインした商品が新聞に掲載された

